

* 調査の詳細は、ホームページをご覧ください。

アイル 景況調査



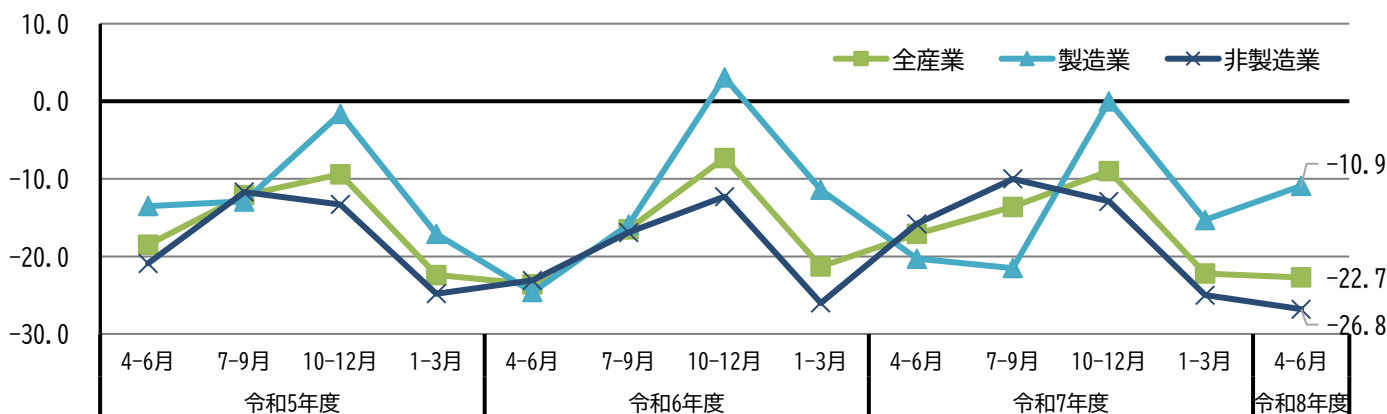
業況判断 DI は、全産業は横ばい。製造業は改善、非製造業は悪化。

- ◆製造業 規模別の業況：大企業は大幅な悪化、中小企業は改善。
- ◆非製造業 業種別の業況：建設業は大幅な悪化、卸売業は悪化、小売業・サービス業は改善。
- ◆（原材料）仕入価格：全産業で上昇し、DI は 68.6 と調査開始以来の最高値。
- ◆中東情勢流動化の影響：マイナスの影響があると予測する事業所は 83.2%。

◆業況判断（前期比）注（ ）内は前回調査との差を示します。

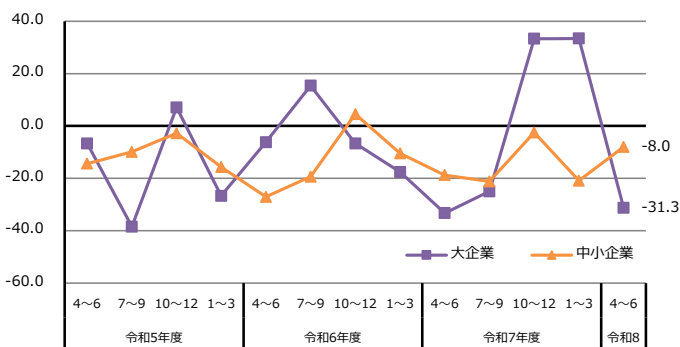
<全体>

業況判断 DI は、▲22.7 (-0.5) で横ばいとなりました。業種別では、【製造業】は▲10.9 (+4.4) で改善、【非製造業】は▲26.8 (-1.8) で悪化しました。



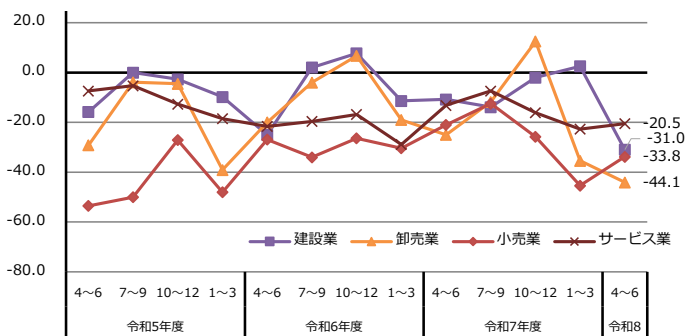
<製造業（規模別）>

【大企業】は▲31.3 (-64.7) で大幅な悪化、【中小企業】は▲8.0 (+12.9) で改善しました。



<非製造業（業種別）>

建設業は▲31.0 (-33.5) で大幅な悪化、卸売業は▲44.1 (-8.7) で悪化しました。小売業は▲33.8 (+11.6)、サービス業は▲20.5 (+2.2) となり、ともに改善しました。



DI とは

景気動向指数「デフュージョン・インデックス（Diffusion Index）」の略。「好転」（または「上昇」「増加」「過剰」）と回答した企業の比率から「悪化」（または「下降」「低下」「不足」）と回答した企業の比率を差し引いたもので、業況の方向感を測るための指標です

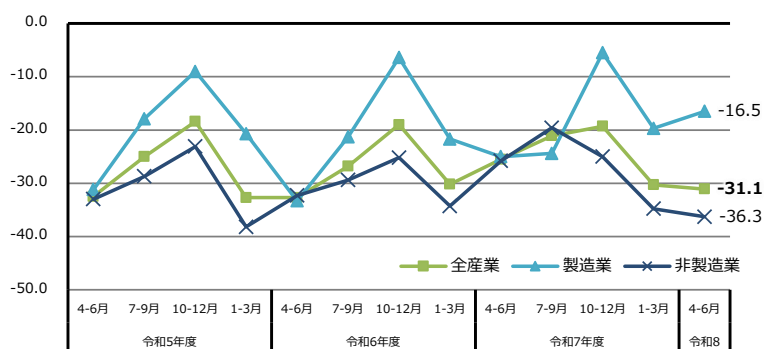
◆業界天気図



業種 項目	全産業	製造業			非製造業				
		全体	大企業	中小企業	全体	建設業	卸売業	小売業	サービス業
今回業況判断DI値									
前回との差	→	→	↓	↗	↘	↓	↘	↗	↘

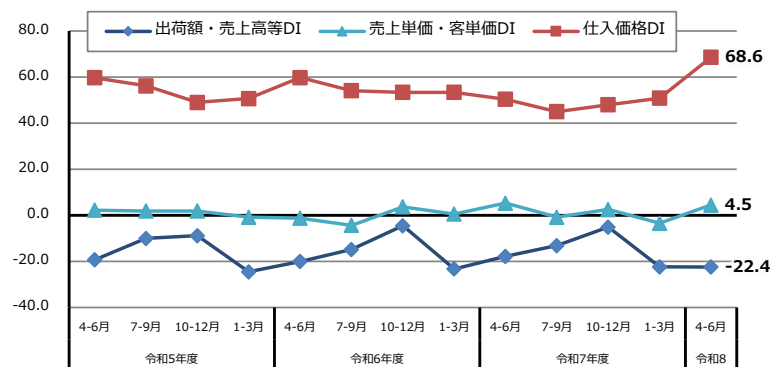
◆収益（前期比）

- ・収益 DI は、全産業で▲31.1 (-0.8) と、横ばいとなりました。
- ・製造業は▲16.5 (+3.2) で改善、非製造業は▲36.3 (-1.5) で悪化しました。



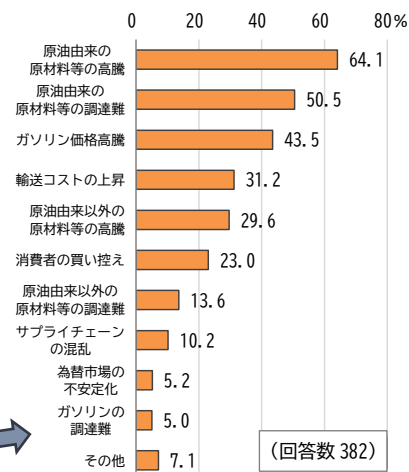
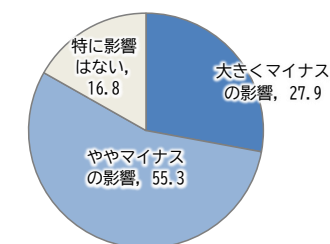
◆売上・売上単価・仕入価格（前期比）

- ・全産業の出荷額・売上高 DI は▲22.4 (-0.1) で横ばいとなりました。
- ・売上単価・客単価 DI は 4.5 (+7.9) と上昇してプラス値となりました。
- ・(原材料) 仕入価格 DI は、68.6 (+17.7) と、本調査開始以来の最高値となりました。仕入価格が上昇したと回答した事業所が、全体の 7 割以上を占めています。



◆中東情勢によるガソリン・物価高騰等の影響の予測

- ・今後 3 カ月について「大きくマイナスの影響がある」と予測する事業所は 27.9%、「ややマイナスの影響がある」と予測する事業所は 55.3%で、合計 83.2%がマイナスの影響があると予測しています。
- ・マイナスの影響の要因は「原油由来の原材料の高騰」が 64.1%、次いで、「原油由来の原材料等の調達難」が 50.5%と多くなっています。



<本資料の問い合わせ先>

■ 尼崎市 経済環境局経済部 イノベーション推進担当
 ■ (公財) 尼崎地域産業活性化機構 OIC 推進室
<https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>

担当：南條・織田
 担当：宮崎・桂山

連絡先：06-6489-6675
 連絡先：06-6488-9534